

平成20年度*

災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査

も く じ

はじめに.....	1
・ 調査概要	2
1 - 1 . 調査概要	3
1 - 2 . 調査対象の災害ボランティアセンター	3
・ 災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査.....	4
2 - 1 . 安全衛生に関する資機材・物資について	5
2 - 2 . ボランティア活動者に対する安全衛生に関する配慮 ..	11
2 - 3 . ボランティア活動時において発生したケガ、疾病	16
2 - 4 . 安全衛生に関する課題・提案・感想等	22
・ 資料編	24
3 - 1 . 安全衛生のために使われる資機材・物資の例	25
3 - 2 . アンケート調査票	26

(*本調査では、平成19年度に発生した、「平成20年2月富山県高波災害」による災害も対象とした。)

内閣府（防災担当）

平成21年3月

はじめに

本調査は、災害ボランティア活動の安全衛生に関して、その実態や課題把握を実施し、今後の災害時においてすみやかな対応や課題解決の一助とすることを目的とする。

なお、調査にあたっては、災害ボランティアセンターの設置・運営に関わった県・市町社会福祉協議会等の関係者の方々にアンケート等に回答いただくとともに、多忙の折にも関わらず、全国社会福祉協議会のご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

．調査概要

1 - 1 ．調査概要

本調査は、平成 20 年度 設置された災害ボランティアセンター（以下、センターとする。）及び平成 20 年富山県高波災害（平成 20 年 2 月）により設置されたセンターを対象に、災害ボランティア活動の安全衛生に関する対応等について、その現状や課題を把握することを目的とし、各センターの主体と考えられる各社会福祉協議会に、アンケート調査を実施した。

実施期間	平成 21 年 3 月 5 日～3 月 19 日
対 象	平成 20 年度設置された災害ボランティアセンター及び 平成 20 年富山県高波災害（平成 20 年 2 月）により設置された災害ボラン ティアセンター
調査方法	担当部局への郵送（全国社会福祉協議会、センターが設置された都道府県社会 福祉協議会。）、FAX 及び郵送による回収
回 収	都道府県レベル 1 センター中 1 センター（100%） 市区町村レベル 7 センター中 7 センター（100%）

1 - 2 ．調査対象の災害ボランティアセンター

調査対象とした災害ボランティアセンターは表 1 - 1 のとおりである。

表 1-1 平成 20 年度 設置・運営が確認された災害ボランティアセンター一覧

(センター設置順)

	都道府県	市区町村	正式名称	活動期間	災害名
1	富山県	入善町	入善高波災害ボランティアセンター	H20/2/26(火)-3/3(月)	平成 20 年富山県 高波災害
2	宮城県	栗原市	栗原市社会福祉協議会災害対策本部	H20/6/14(土)-7/3(木)	「平成 20 年(2008 年) 岩手・宮城内陸地震」 災害
3	岩手県	奥州市	奥州市社会福祉協議会災害救援ボラ ンティアセンター	H20/6/18(水)-7/31(木)	
4	石川県	---	災害対策ボランティア本部	H20/7/28(月)-8/8(金)	平成 20 年「7 月 28 日 からの大雨」災害
5	石川県	金沢市	金沢災害ボランティアセンター	H20/7/29(火)-10/10(金)	
6	富山県	南砺市	南砺市ボランティアセンター現地対策室	H20/7/30(水)-8/3(日)	
7	愛知県	岡崎市	岡崎市防災ボランティア支援センター	H20/8/29(金)-9/7(日)	「平成 20 年 8 月末 豪雨」災害
8	愛知県	名古屋市	名古屋市災害ボランティアセンター	H20/9/1(月)-9/12(金)	

(H21/3/19 時点)

本調査では、平成 19 年度(平成 20 年 2 月)に発生した「平成 20 年富山県高波災害」による災害も対象とした。

．災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査

．災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査

2 - 1 ．安全衛生に関する資機材・物資について

(1) 調達した資機材・物資と調達先

ボランティア活動時の安全衛生を確保するためには、作業者の装備、作業後の衛生施設の整備をセンターで行うことが重要である。

安全衛生に必要な資機材・物資のリストは、表 2-1 のようなものが考えられる。

表 2-1 安全衛生に必要な資機材・物資

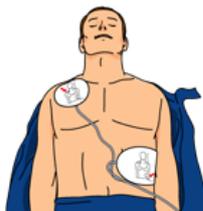
作業中	個人	<ul style="list-style-type: none">・ヘルメット・防塵（ぼうじん）ゴーグル・防塵（ぼうじん）マスク・通常のマスク・軍手・ゴム引き手袋（荷運び向け）・ゴム手袋（防水）・革手袋・安全靴（つま先や靴底に鉄板等が入ったもの）・タオル・ペットボトルの水・（熱中症予防の）塩分など
	グループ	<ul style="list-style-type: none">・救急セット・連絡用の携帯電話・トランシーバー・A E D（自動体外式除細動器）^{*1}
作業後	センター	<ul style="list-style-type: none">・消毒液・うがい薬・高圧洗浄機（汚泥等を洗い流す）^{*2}

（ P 25 「安全衛生のために使われる資機材・物資の例」を参照）

*1 A E D (Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器)とは

突然心停止状態に陥った人に対して、電気ショックを与えて、心臓を正常な状態に戻す医療機器。

平成 16 年より、一般の人でも使えるようになったため、各地で一般市民向けの講習が開かれている。



（日本赤十字社ホームページ等より作成）

表 2-1 の資機材・物資について、問 1 の質問に対して、図 2-1 の結果が得られた。

問 1 災害ボランティアセンター(以下、「センター」と呼ぶ)等で準備した用品につき、回答欄に を入れ、その大まかな数量と、主な調達先をお答えください。調達先については、「備蓄済み」「(….)から受領」「地元商店から購入」等とお書きください。



図 2-1 ボランティア活動時に準備した安全衛生に関する資機材・物資

準備する割合が多かった資機材・物資

- ・「軍手」(8センター中7センター)
- ・「うがい薬」(8センター中6センター)
- ・「救急セット」「消毒液」「携帯電話」「タオル」(8センター中5センター)

準備する割合が低かった資機材・物資、準備していなかった資機材・物資

- ・「トランシーバー」「皮手袋」「防塵ゴーグル」「防塵マスク」(8センター中1センター)
- ・「AED」*1「ゴム引き手袋」「安全靴」「高圧洗浄機」*2(8センターいずれもなし)

(*1 = 自動体外式除細動器 (前ページ参照))

表 2-1 の他に、安全衛生に関する資機材・物資として、自由回答で記述があったものは、表 2-2 のとおりである。

表 2-2 その他自由回答(安全衛生に関する資機材・物資)

分類	その他、自由回答(資機材・物資)
衛生用品	「ウェットティッシュ」 「ハンドソープ」
作業中に用いるもの	「ごみ袋」 「ブルーシート」 「水分を摂取するためのお茶や飲料」

コラム 2 「高圧洗浄機」

高圧で水を噴射し、泥等の洗浄を行うのに有効な機材。用途によって使い分ける必要があるため、適切なサイズを選ぶ必要がある。

高圧洗浄機の例	活動後の長靴の洗浄	活動先の家屋の洗浄
		

ボランティアセンターで準備した安全衛生に関する資機材・物資（6種類）の調達先についてまとめたものが、図 2-2 である。

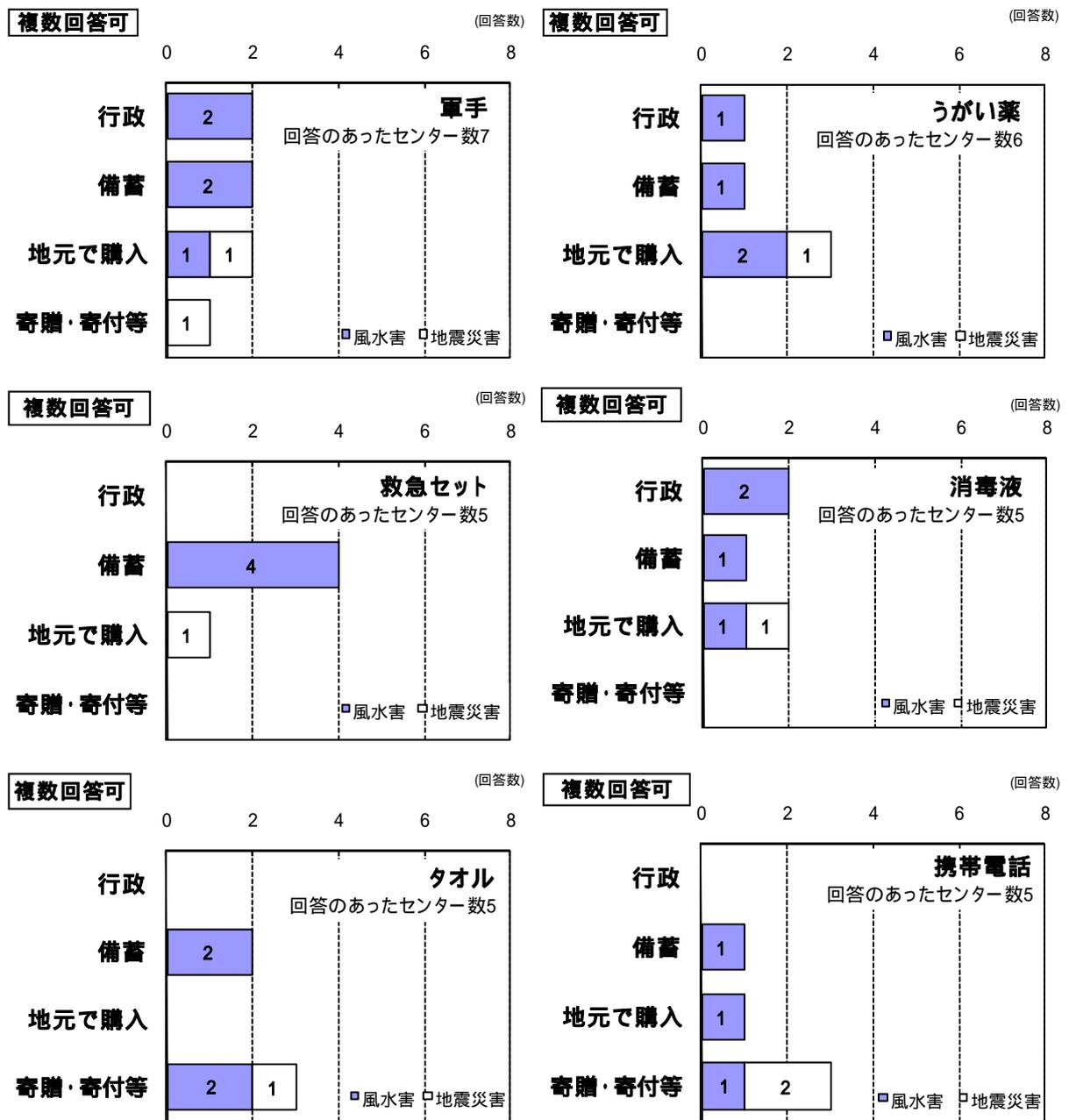


図 2-2 安全衛生に関する資機材・物資の調達先

資機材・物資ごとにみると、「救急セット」、「軍手」、「タオル」については平時より備蓄しているセンターが複数あった。「軍手」、「消毒液」は行政から入手したケースも多い。

「うがい薬」は地元で購入するセンターが多く、「タオル」、「携帯電話」は企業からの寄贈や支援物資、救援物資として調達したセンターが多かった。

(2) 調達のきっかけ

安全衛生に関する資機材・物資について、調達に至ったきっかけについて、問2のとおり聞いたところ、図2-3(a)、図2-3(b)の結果が得られた。

問2 調達したきっかけはどのようなものですか。(いずれかを回答)

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1) ボランティアや関係者から必要との指摘を受けて | 2) センター(スタッフ)が必要と判断し自発的に |
| 3) マニュアルや規定等であらかじめ決められていたため | 4) その他 |

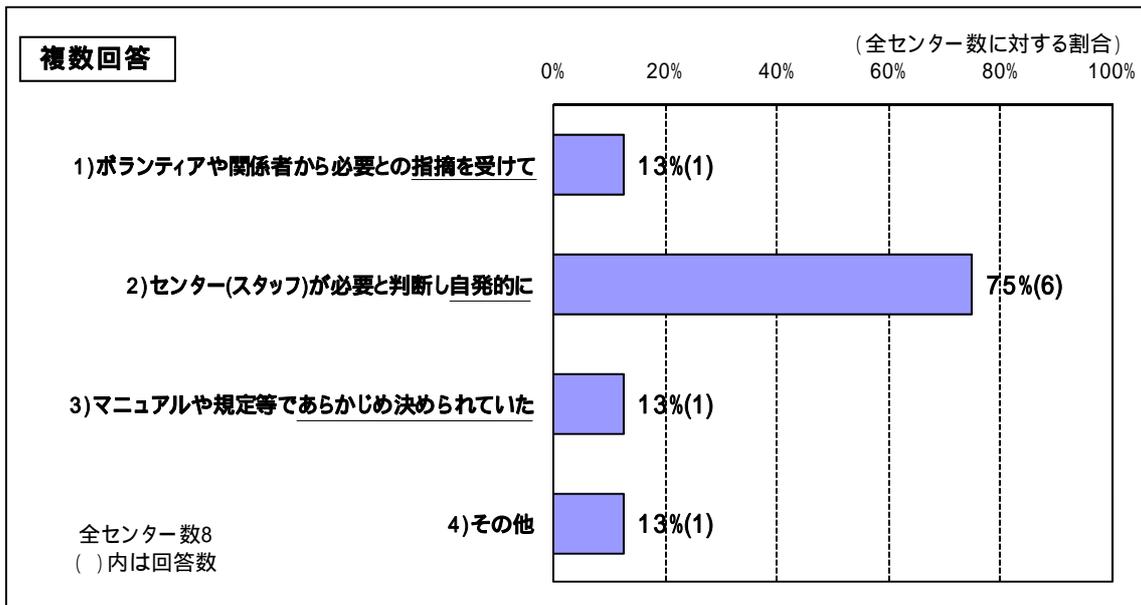


図2-3 (a) 調達に至ったきっかけ

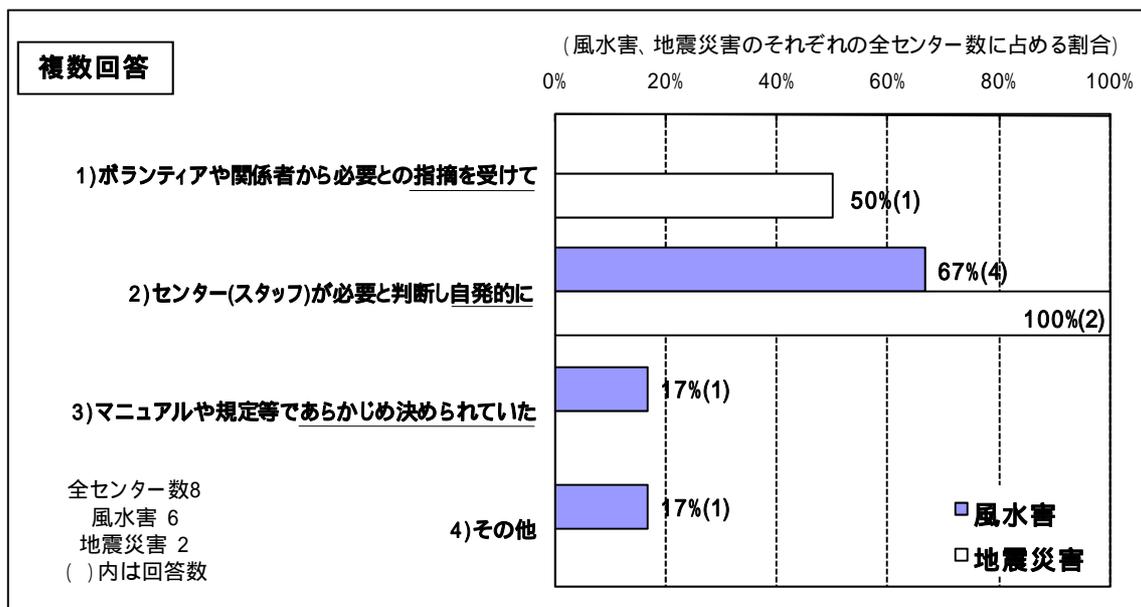


図2-3 (b) 調達に至ったきっかけ(風水害・地震災害の別)

「2)センター(スタッフ)が必要と判断し自発的に」資機材・物資等を調達した例が多く、「3)マニュアルや規定等であらかじめ決められていた」は、風水害の1例のみであった。

(3) 調達時に困ったこと

安全衛生に関する資機材・物資の、調達時に困ったことについて、問3の質問に対しては、図2-4の結果が得られた。

問3 調達の際に困ったことはありますか。(複数回答可)。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1) 購入調達先が分からなかった | 2) 購入調達先のための資金が足りなかった |
| 3) 想定した購入調達量が確保できなかった | 4) その他 |

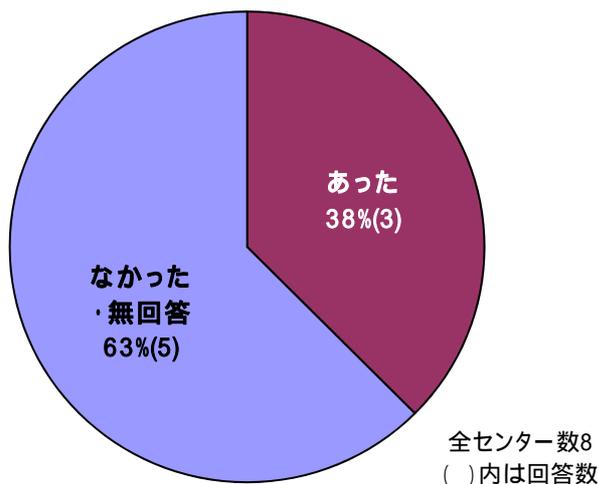


図2-4 調達時の困ったことの有無

資機材・物資等の調達の際に困ったことがあったセンターは3センターあり、そのうち2センターは「2)購入調達のための資金が足りなかった」と回答している。

購入財源により使用制限があり、柔軟な対応ができなかったセンターもみられる。

また、「資金があれば調達したかったもの」の質問に対して、「連絡用携帯電話」を希望するという意見があった。

その他、災害ボランティアセンターの安全衛生に必要な資機材・物資等について聞いたところ、「ボランティアが十分に休憩をとることができるような環境をつくることのできる用品」という意見もあった。

2 - 2 . ボランティア活動者に対する安全衛生に関する配慮

(1) 各センターにおけるケガ・疾病の予防、健康管理面での配慮について

ケガ・疾病予防や健康管理について、問4のとおり聞いたところ、図2-5、図2-6、図2-7、図2-8の結果が得られた。

問4 災害ボランティア活動時のケガ・疾病予防や健康管理方法について、参加者等に周知したことがあれば、その内容と周知策を、すべてご記入下さい。下記の選択肢(X、A～E)から該当する全てを回答欄にお書き下さい。(複数回答可)

【周知内容】

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1) 活動環境(被災地の被害状況・天候など) | 2) 必要な服装・装備・作業所統の心構え |
| 3) 作業手順等 | 4) ケガ、疾病時の応急手当方法 |
| 5) ケガ、疾病時の現地連絡先(救護所など) | 6) 一定時間おきの休憩 |
| 7) 天候急変時の対応 | |

【周知策】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| X 特に周知のための手当はしなかった | A センター内に張り紙等で掲示 |
| B 参加者に紙で配付 | C 参加者向けの説明会を実施 |
| D 現場リーダーに通達 | E インターネットに掲示 |

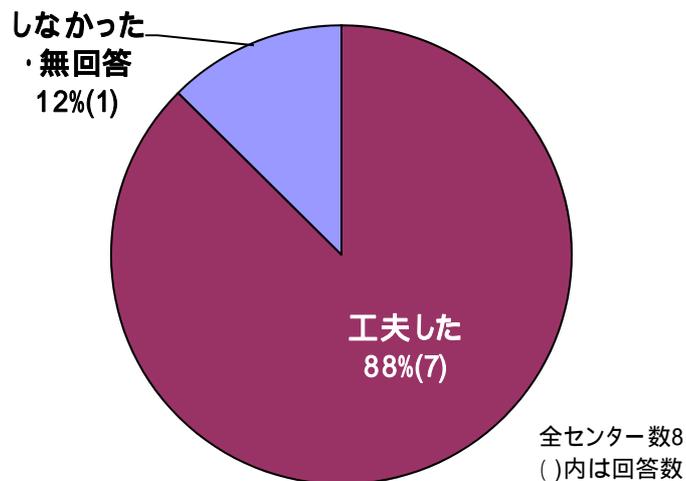


図2-5 安全衛生面に関してなんらかの工夫をしたセンター

88% (8センター中7センター)において、ケガ・疾病予防や健康管理方法について、何らかの配慮を行っていたという結果が得られた。

また、その配慮の内容については図 2-6 のとおりであった。

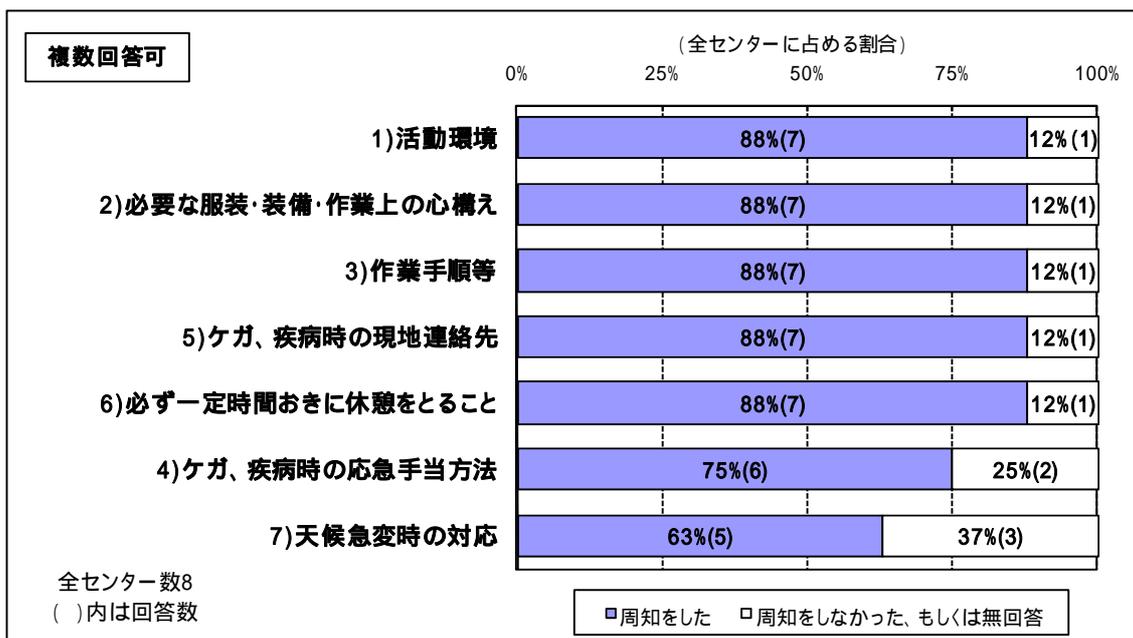


図 2-6 ケガ・疾病の予防・健康管理面での配慮の実施の有無

「1)活動環境」、「2)必要な服装・装備・作業上の心構え」、「3)作業手順等」、「5)ケガ、疾病時の現地連絡先」、「6)必ず一定時間おきに休憩をとること」は、8センター中7センターで周知していた。「4)ケガ、疾病時の応急手当方法」、「7)天候急変時の対応」は、過半数のセンターで周知していた。

ケガ・疾病の予防・健康管理方法の周知方法については、図 2-7 のとおりであった。

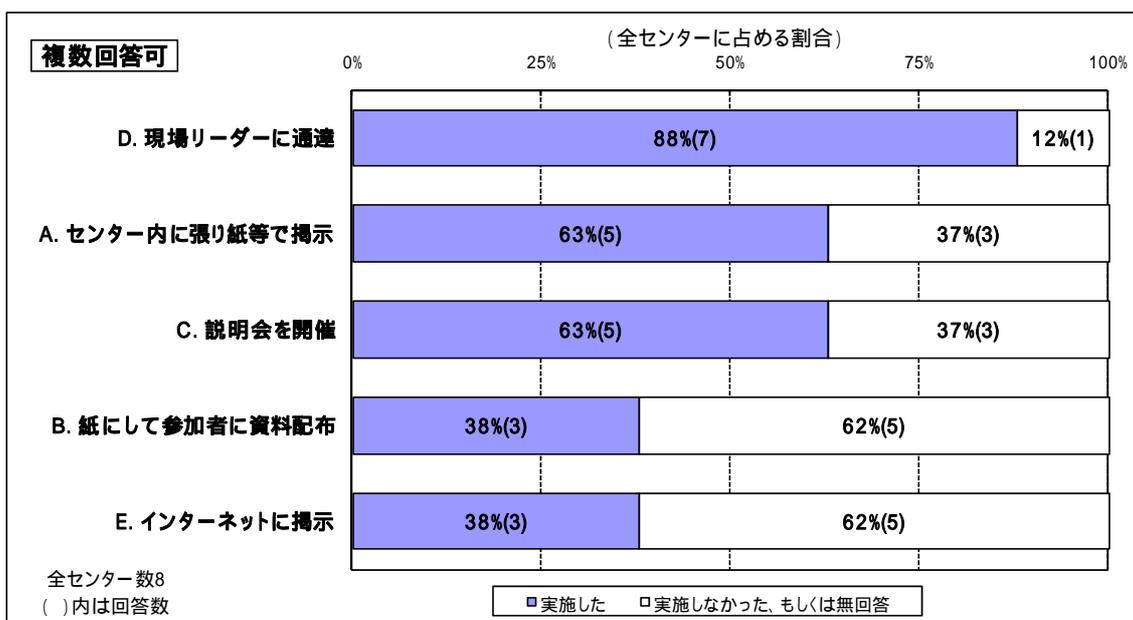
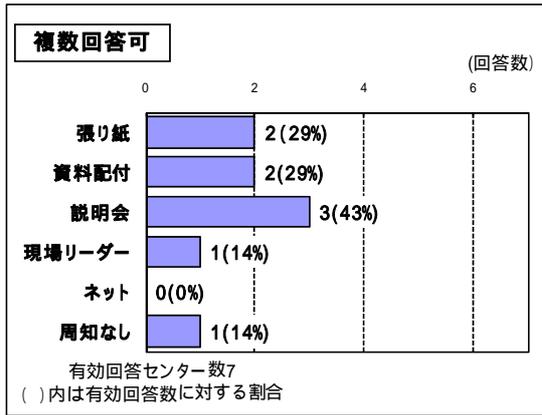


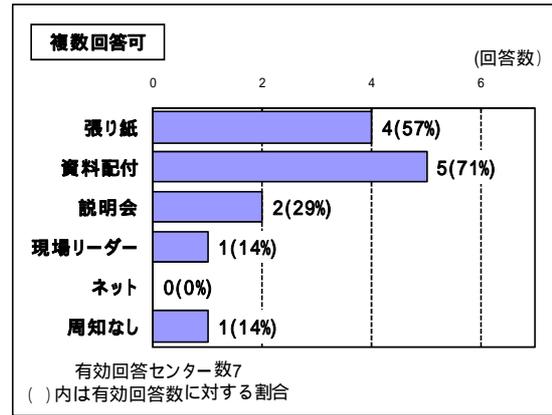
図 2-7 ケガ・疾病の予防・健康管理に関する周知方法

「D.現場リーダーに通達」が一番多く、次いで、「A.センター内に張り紙等で掲示」「C.説明会を開催」などが多かった。

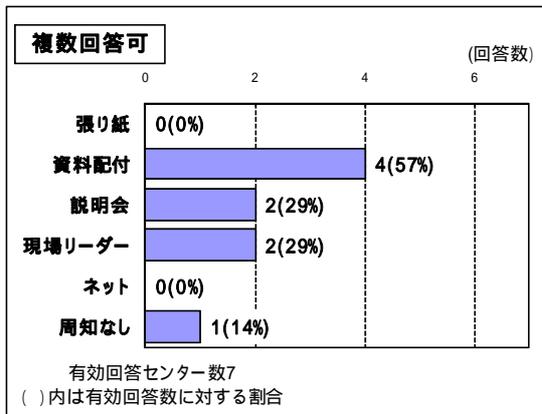
1) 活動環境(被災地の被害状況・天候など)



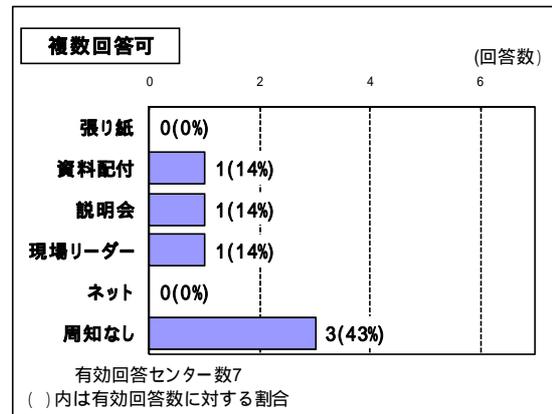
2) 必要な服装・装備・作業上の心構え



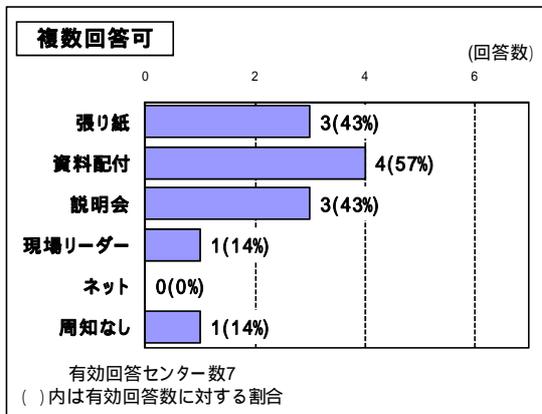
3) 作業手順等



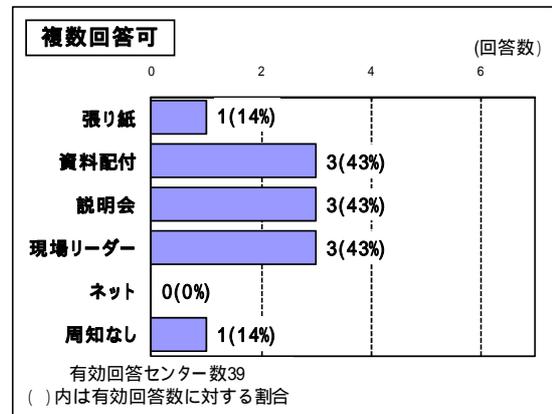
4) ケガ、疾病時の応急手当方法



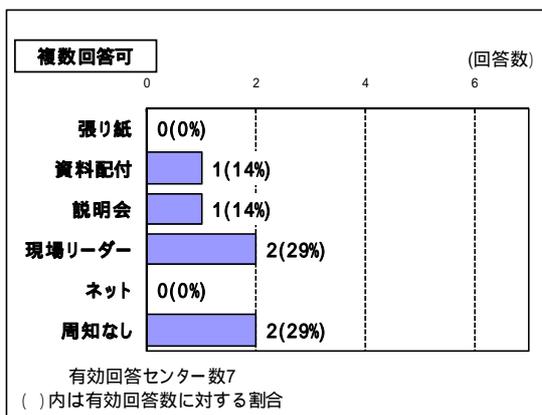
5) ケガ、疾病時の現地連絡先(センターの救護所等)



6) 必ず一定時間おきに休憩をとること



7) 天候急変時の対応



- 【凡例】
- 張り紙 : センター内に張り紙等で掲示
 - 資料配付 : 参加者への資料配付
 - 説明会 : 説明会の開催
 - 現場リーダー : 現場リーダーへの通達
 - ネット : インターネットに掲示

図 2-8 周知内容に対するそれぞれの周知方法

図 2-8 の 1) ~ 7) を整理すると下記となる。

1) 活動環境

説明会の開催が 7 センター中 3 センター、次いで、張り紙、資料配布がそれぞれ 2 センターで行われた。

2) 必要な服装・装備・作業上の心構え

参加者への資料配付が 7 センター中 5 センターで行われ最も多く、次いで、張り紙が 4 センターで行われている。

また、インターネットに掲載し、事前周知を図ったセンターはなかった。

3) 作業手順等

作業手順等については、約半数のセンターで参加者への資料配付を行っている。

4) ケガ、疾病時の応急手当法

7 センター中 3 センターは応急手当方法の周知をしていなかった。

5) ケガ、疾病時の現地連絡先（センターの救護所等）

現地連絡先は、過半数が参加者への資料配付を行っている。次いで、張り紙、説明会等で通知した例が多い。

6) 必ず一定時間おきに休憩とること

休憩の周知については、参加者への資料配付、説明会の開催、現場リーダーへの通達によってそれぞれ 7 センター中 3 センターで周知された。

7) 天候急変時の対応

天候に関しては、現場リーダーへの通達による周知が複数のセンターで行われたが、天候急変時の対応のための周知がされなかったセンターも複数あった。

(2) その他安全衛生面に関する配慮事項

その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知について、問5の質問に対し、回答を表2-3のとおり、「活動前」「活動中」「活動後」の時系列別に整理した。

問5 その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知のためにとった対策があればお書きください。(自由回答)

表2-3 その他安全衛生面に関する配慮事項(自由回答)

時系列	対 策 の 内 容
活動前	<ul style="list-style-type: none">・ ボランティアセンターで水分補給用の飲み水を配布。[風水害]・ 出発時に無理をしないようリーダーに伝達。[風水害]
活動中	<ul style="list-style-type: none">・ 受け入れ先の町会で、作業手順の説明や休憩の指示を実施。[風水害]・ 活動時間を午前または午後の2時間に制限。[風水害]
活動後	<ul style="list-style-type: none">・ ボランティアセンターの手足を洗う場所に消毒液を設置。[風水害]

その他、今回は対策を実施しなかったが、「事前に作業現場の状況確認ができていれば、その状況の注意事項を説明していた」というセンターもあった。

2 - 3 . ボランティア活動時において発生したケガ、疾病

(1) 発生したケガ・疾病

各センターにボランティア活動時のケガ・疾病の発生について問6の質問に対し、図2-9の結果となった。

問6 センターの活動中に、ケガ・疾病が発生しましたか。

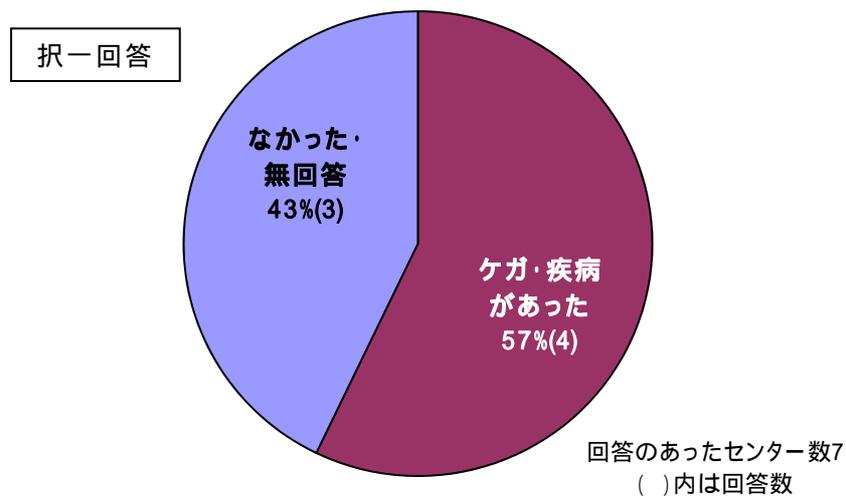


図2-9 災害ボランティア活動時のケガ・疾病の発生の有無

また、ケガ・疾病の内容について、問7の質問に対し、図2-10(a)、図2-10(b)の結果となった。

問7 どのようなケガ・疾病だったでしょうか。(複数回答可)

- 1) 熱中症
- 2) 過労・睡眠不足による各種症状
- 3) 持病の悪化
- 4) 胃腸消化器の不良
- 5) 作業中のケガ(クギのふみぬき等)
- 6) 移動中の事故
- 7) その他(具体的な内容)

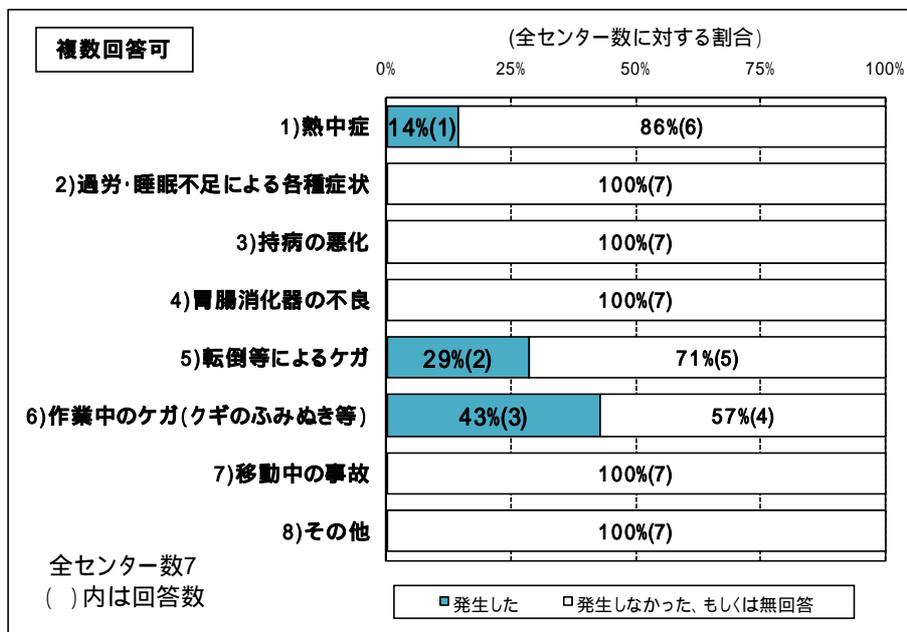


図2-10(a) ケガ・疾病の内容

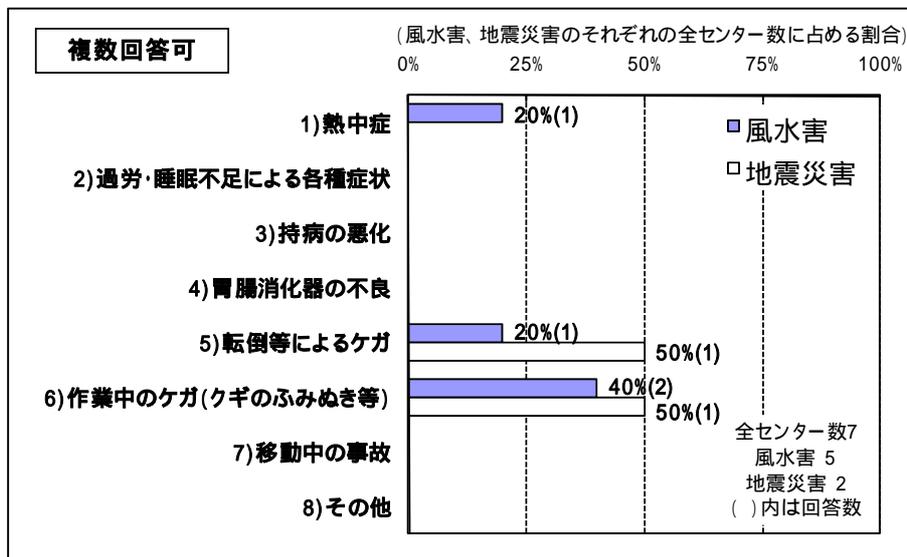


図2-10(b) ケガ・疾病の内容(風水害・地震災害の別)

7センター中3センターでクギのふみぬき等の作業中のケガ、2センターで転倒等によるケガが発生しており、また、熱中症の事例も1センターあった。

また、問 7 の選択肢以外で、安全衛生面上でのリスクにつながる行動があったかどうかについて、問 8 の質問に対し、図 2-11(a)、図 2-11(b)のような結果となった。

問 8 下記の様な事例がありましたか。(複数回答可)

1) 体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた 2) ケガをしているのに作業を続ける人がいた
 3) 過労、睡眠不足なのに作業を続ける人がいた 4) 休憩する時間をとらない人がいた
 5) 作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった 6) 作業中に天候が急変した
 7) 決まった時間になっても帰ってこない人がいた 8) その他

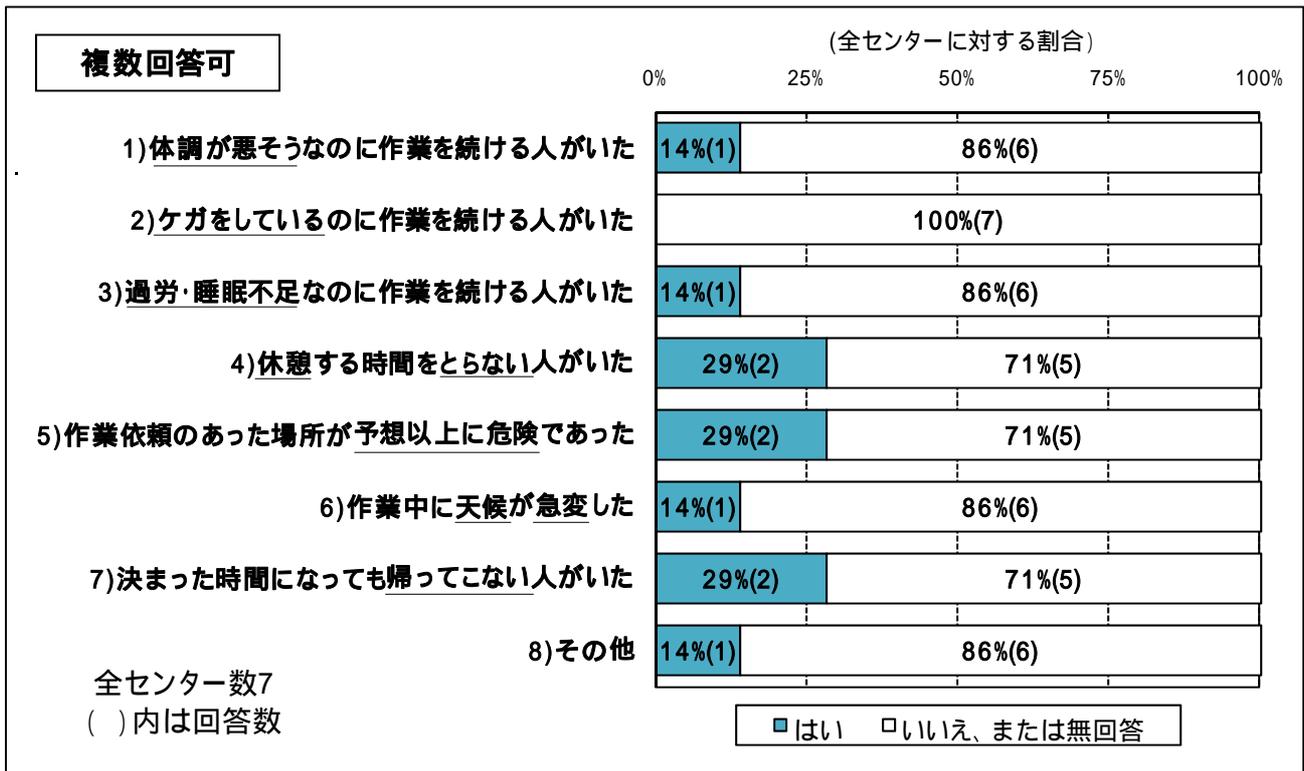


図 2-11(a) 安全衛生上リスクにつながる行動

「4)休憩する時間をとらない人がいた」や「7)きまった時間になっても帰ってこない人がいた」³という事例があった。「5)作業依頼のあった場所が予想以上に危険であった」が複数あった。

³ P19 のコラム 3 を参照

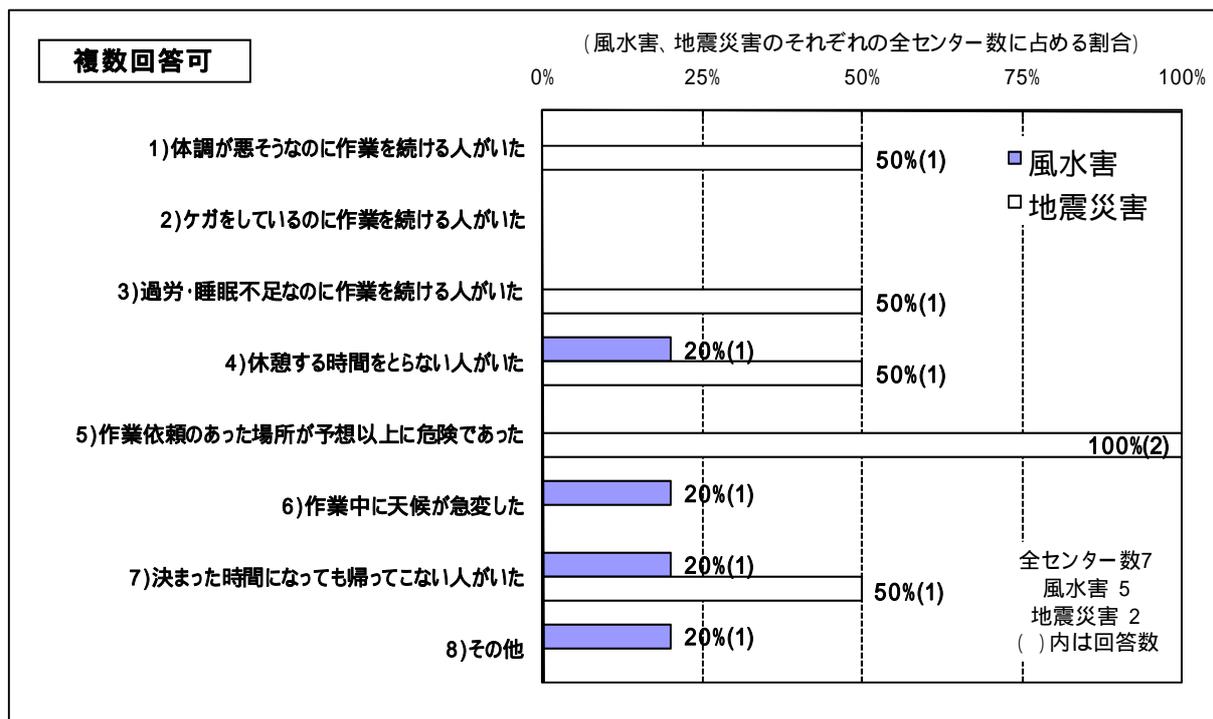


図 2-11(b) 安全衛生上リスクにつながる行動(風水害・地震災害の別)

風水害、地震災害両方のセンターで「4)休憩する時間をとらない人がいた」、「7)決まった時間になっても帰ってこない人がいた」*3という事例があった。

地震災害のセンターでは、「5)作業依頼のあった場所が予想以上に危険であった」2センター中2センターであった。

*3 なぜ決まった時間の点呼が重要か

問8の選択肢については、被災地内で活動する際に直接リスクにつながる可能性のある行為を列挙したものである。

例えば「決まった時間になっても帰ってこない人がいた」は、被災地域内においては、斜面の崩落や二次災害を受ける恐れがあり、見えないところで動けなくなったりする者が発生する可能性があり、さらには、当日初めて顔を合わせる者同士で作業することも少なくなく、動けなくなった者を見逃してしまう可能性がある。このため、作業前、休憩時、作業完了後それぞれに点呼を行い、不明者が発生していないことを確認することが重要である。



また、二人一組でお互いの所在を確認し、顔色を見るなどにより健康状態をチェックしあう仕組み(バディ・システム)などを取り入れることも有効である。

その他、被災地域においては、被災者からの期待や、参加意欲の高い者が復旧活動に参加しているため、ケガをしていたり、体調が悪い人でも活動に参加したり、必要な休憩を取らずに活動を続けてしまう可能性がある。

これらは、思いもよらない事故や、被災地域の方や被災者も含めた過労、さらには作業にあたった者がなかなか日常生活に戻れなくなるような症状にもつながりかねないリスクであり、作業計画等を立てる際には十分な配慮が必要である。

(2) 専門家への相談

有給/無給、義務・契約/自発に関わらず、通常の労働現場と同等のリスクのもとで活動する可能性がある以上、平時から安全衛生の確保に携わっている専門家に相談することは、極めて有効である。

そこで、それぞれのセンターにおいて、災害ボランティア活動の安全衛生について、問9の質問を行ったところ、図2-12の結果が得られた。

問9 災害ボランティア活動の安全衛生について、どんな専門家に相談しましたか。(複数回答可)

- 1) 医師 2) 看護師 3) 保健師 4) 日本赤十字社関係者
5) 労働安全衛生コンサルタント 6) その他(具体的な内容) 7) 特に相談していない

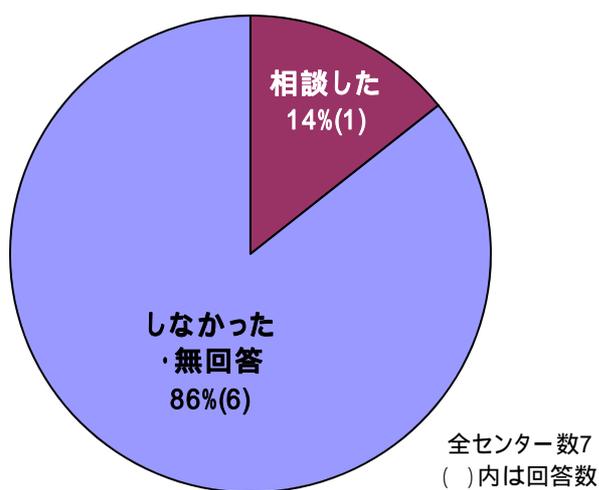


図2-12 専門家への相談の有無(全体)

災害ボランティア活動の安全衛生について、何らかの専門家に相談したのは7センター中1センターのみであった。

具体的に、どのような専門家に相談を行ったかについては、図 2-13 のとおりであった。

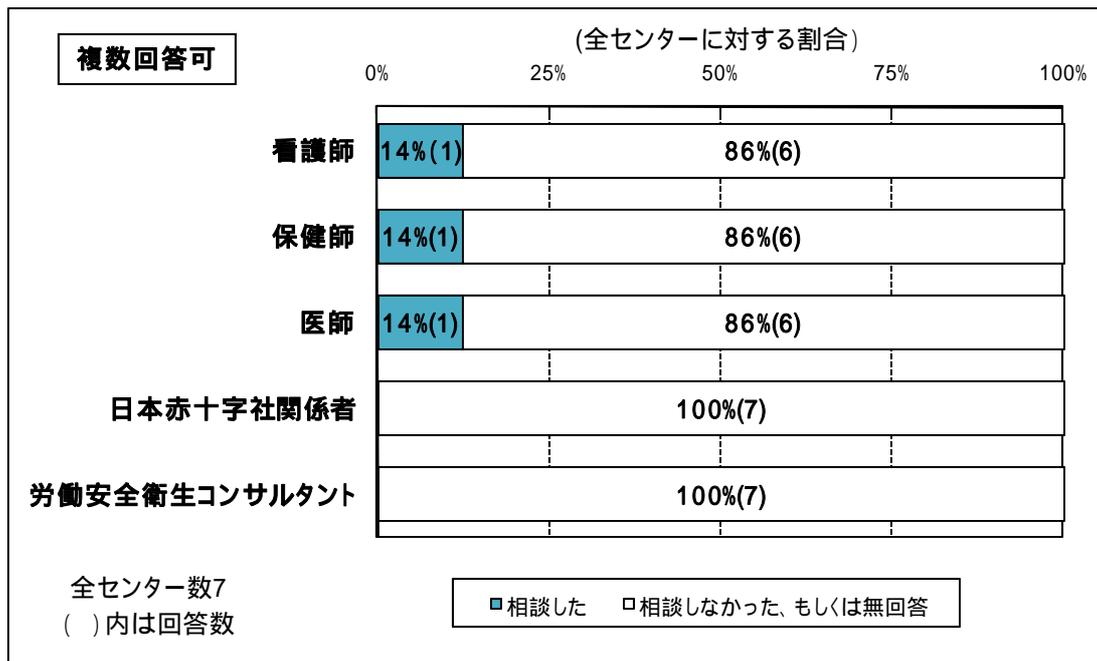


図 2-13 相談した専門家の種類

安全衛生について相談を行ったセンターは、「看護師」、「保健師」、「医師」に相談していた。

「日本赤十字社関係者」や、企業等において平時より労働現場の安全衛生環境について企画し指導する立場である「労働安全衛生コンサルタント」に相談した事例はなかった。

2 - 4 . 安全衛生に関する課題・提案・感想等

安全衛生に関する課題・提案・感想などについて、単に資機材・物資をそろえるだけではなく、ノウハウを把握するため、問 10 の質問を行い、表 2-4 のとおり結果となった。

問 10 安全な災害ボランティアセンターの運営や災害ボランティア活動の安全衛生の確保等について、役だったノウハウ、あってよかった用品、課題反省、提案、感想等があれば、ご自由にお書き下さい。

表 2-4 センターの運営や災害活動の安全衛生の確保等について、役だったもの等

資機材・物資	<p>資機材・物資等の購入財源により<u>使用制限</u>があり、柔軟な対応ができなかった。 ボランティアセンターで<u>水分補給用の飲物</u>を配布。 ボランティアセンターの手足を洗う場所に<u>消毒液</u>を設置。 活動資材の<u>備蓄</u>が課題。 ボランティアが十分に<u>休憩をとることができるような環境</u>をつくることのできる用品があればよい。</p>
健康面の配慮	<p>活動時間を午前または午後の2時間に<u>制限</u>。 出発時に<u>無理をしない</u>ようリーダーに伝達。 募集人数が少ないと、1日に活動<u>を“はしご”</u>することが多くなり、ボランティアに負担がかかってしまったことが多かった。 サロン活動や訪問など、<u>心のケア</u>に重点を置いた活動を展開。</p>
役立つノウハウ	<p>事前に作業現場の<u>状況確認</u>ができていれば、その状況の注意事項を説明できた。 ボランティアを受け入れる<u>町会</u>で、作業手順の説明や休憩の指示を実施。</p>

財源不足のため資機材・物資が購入できず対応ができなかったセンターがあった。そのため、その費用の確保や、消耗品については、平時から備蓄が必要との回答をしたセンターがあった。

ボランティアが十分に休憩をとることができる環境整備の必要性をあげたセンターがあった。

安全・健康面の配慮のため、活動時間を2時間に制限したセンターがあった。

町会と連携しボランティア活動先で作業手順の説明や休憩の指示を行ったセンターがあった。

資料編

3 - 1 . 安全衛生のために使われる資機材・物資の例

			
<p>ヘルメット 頭部を保護する</p>	<p>防塵（ぼうじん）ゴーグル 目を保護する</p>	<p>防塵（ぼうじん）マスク 粉じんを吸い込まないようにする</p>	<p>通常のマスク 防塵（ぼうじん）マスクの簡易のもの</p>
			
<p>軍手 すべり止めのゴムが付いたものがある</p>	<p>ゴム引き手袋 手のひらの面にゴムが塗られており、手を保護する</p>	<p>ゴム手袋（防水） 手袋内に水が浸入するのを防ぐ</p>	<p>革手袋 手を保護する</p>
			
<p>安全靴（つま先や靴底に鉄板等が入ったもの） 足を保護する</p>	<p>タオル 汗や汚れのふき取り等に使用する</p>	<p>ペットボトルの水 水分を補い、熱中症等を予防する</p>	<p>塩分など 発汗等により失われた塩分やミネラル分を補う</p>
			
<p>救急セット 活動先での応急手当てができるようまとめたもの</p>	<p>携帯・トランシーバー 離れた場所と連絡を取り合う際に使用</p>	<p>消毒液 手洗い時に使用し、食中毒等を予防する</p>	<p>うがい薬 活動時のほこり等で汚れたのどを洗浄する</p>

平成20年2月富山県地震災害および平成20年度に設置された災害ボランティアセンター対象

災害ボランティアセンターに関するアンケートのお願い
(災害ボランティアセンター対象)

内閣府 災害予防担当
回答は、同封の返信用回答用紙にご記入ください。
※このアンケートでいう「災害ボランティアセンター」とは、例えばボランティア希望者を受け付け、災害後に住民の方らのニーズやセンターの発着等に基づき、避難所運営支援や、復旧活動支援等を仲介するしくみを指します。名称にこだわらず、幅広い概念を捉えてお答えください。

設置経緯

1. 災害ボランティアセンター(以下、「センター」とします。)設置の経緯について

問1-1 センターについて、以下の項目にお答え下さい。

【回答様式に下記の項目が記されていますので、埋めてください】

- (1) センターの正式名称
 - (2) 該当災害名
 - (3) 設置期間
 - (4) センター長(代表者)の氏名と本来の役職
 - (5) センターの事務局の設置場所(例:「市町村役場内」、「社会福祉協議会内」など)
 - (6) 設置時、最大時、閉塞時におけるセンターの職員・ボランティアそれぞれの職数
 - (7) センターを運営する職員・ボランティアスタッフのそれぞれの組織名称
 - (8) センターの設置に至った理由
(例:住居からのニーズ、外部ボランティアからの要望、ボランティアの問合せが多数になり役場が対応できなくなったため、など)
 - (9) センターの立ち上げ・運営にあたった個人名あるいは団体名
(例:「〇〇町社会福祉協議会」、「NPO法人〇〇〇」など)
- ※立ち上げに、ボランティア団体などの複数の主体が関わった場合、その役割分担など構成についてもお答えください

問1-2 センターと自治体との連携内容についてお聞きします。下記の中から該当するすべての番号をご記入下さい。(複数回答可)

- ① 災害対策本部の会議に災害ボランティアセンター関係者が出席した
- ② 被災者のニーズに関する情報交換(電話やFAXなどによるやりとり)
- ③ ボランティア活動に対する物資支援
- ④ センターの運営支援(運営ノウハウや人員の提供等)
- ⑤ ボランティア活動に対する資金援助
- ⑥ 自治体の地域防災計画の中にボランティアに関する記述がある
- ⑦ その他(連携の内容をお書きください)

問1-3 センターを通じて活動したボランティア活動者について、以下の項目にお答え下さい。

- (1) ボランティア活動者数(のべ人日の総計)
- (2) ボランティア活動者数の把握方法
(例:「センター開設から閉鎖までの受付人数を集計」「ボランティア活動者から提出される、当日の活動報告書の人数を集計」など)
- (3) 主な活動内容
- (4) 活動状況の概要を把握できる資料の有無

～次のページに続く(1/4)～

資金

2. センターの運営に関する資金について

問2-1 センターの「初動時」の資金について、すべての調達先とその金額(概数)をお答えください。

- (調達先)
- ① 市区町村社会福祉協議会のボランティア基金
 - ② 市区町村社会福祉協議会の①以外の費目(通常経費など)
 - ③ 通達済社会福祉協議会のボランティア基金
 - ④ 通達済社会福祉協議会の③以外の費目(通常経費など)
 - ⑤ 郡道府県のボランティア基金
 - ⑥ 郡道府県の⑤以外の費目(通常経費など)
 - ⑦ 市区町村のボランティア基金
 - ⑧ 市区町村の⑦以外の費目(通常経費など)
 - ⑨ 共同募金会の助成金等
 - ⑩ 青年会議所など地域団体からの寄付金等
 - ⑪ 地域外のボランティア団体の資金
 - ⑫ 民間企業からの寄付金
 - ⑬ その他(財団・顔団体等からの寄付金等)
 - ⑭ (災害時以前より運営されていた)災害ボランティアセンター自身の活動基金等
(※⑨～⑭の場合は、調達先の名称もお答えください)

問2-2 センターの「立上げ後」の資金について、すべての調達先と調達(概数)をお答えください。

- (調達先)
- ① 市区町村社会福祉協議会のボランティア基金
 - ② 市区町村社会福祉協議会の①以外の費目(通常経費など)
 - ③ 通達済社会福祉協議会のボランティア基金
 - ④ 通達済社会福祉協議会の③以外の費目(通常経費など)
 - ⑤ 郡道府県のボランティア基金
 - ⑥ 郡道府県の⑤以外の費目(通常経費など)
 - ⑦ 市区町村のボランティア基金
 - ⑧ 市区町村の⑦以外の費目(通常経費など)
 - ⑨ 共同募金会の助成金等
 - ⑩ 青年会議所など地域団体からの寄付金等
 - ⑪ 地域外のボランティア団体の資金
 - ⑫ 民間企業からの寄付金
 - ⑬ その他(財団・顔団体等からの寄付金等)
 - ⑭ 当該災害ボランティアセンター自身の活動基金等
(※⑨～⑭の場合は、調達先の名称もお答えください)

マニュアル

3. センター設置・運営に関するマニュアル等(運営規則など)について

問3-1 センター設置・運営にあたり、事前にマニュアル等は存在しましたか。(回答④⑤についてはその理由もお書き下さい)

- ① マニュアル等は作成していませんでした。
- ② マニュアル等は作成していたが、それが見つからなかった。
- ③ マニュアル等があり、基盤に活用した。
- ④ マニュアル等があり、活用はしなかったが、参考にはした(→理由をご記入下さい)
- ⑤ マニュアル等はあったが、全く使わなかった(→理由をご記入下さい)

問3-2 「問3-1」で「①」以外をお答えいただいた方に:マニュアルの作成主体の名称と作成時期(年、できれば月)をご記入下さい。

(例:「〇〇町社会福祉協議会」、「〇〇県」、「NPO法人」など。複数ある場合は、複数列挙してください)

問3-3 内閣府では、過去の災害ボランティアセンターに対するアンケートの結果等から、災害時のボランティアセンター立上げ及び運営の円滑化のための「情報・ヒート集」を作成、公開しておりますが、「情報・ヒート集」について知っていましたか。

- ① 知っていた
- ② 知らなかった
- ③ 知っていたが活用しなかった

～次のページに続く(2/4)～

運搬

4. 自治体との平時からの連携について

問4-1 平時に、センターの設置やボランティア希望者の受付・配分等を視野に入れた「防災訓練」を実施していますか。(要論している場合、その主体名と訓練の概要をお答えください)

- ①はい ②いいえ

問4-2 「問4-1」で①とお答えいただいた方に:その防災訓練は、自治体以外の組織と連携して実施していますか。(要論している場合、その主体名と訓練の概要をお答えください)

- ①はい (一連携主体名、訓練概要を記入して下さい) ②いいえ

問4-3 防災を目的として、自治体とボランティア団体等との連携の場(協議会、連絡会議など)を設けていますか。(設置されている場合、その構成員と事務局となる主体をご記入下さい)

- ①はい (一構成員と事務局となる主体を記入してください) ②わからない

安全衛生

5. ボランティア活動時の安全衛生に関する配慮等

問5-1 災害ボランティア活動時のケガ・疾病予防や健康管理方法について、参加者等に周知したことがあれば、その内容と方法を、すべてご記入ください。(複数回答可)

【周知内容】

- ①活動環境(被災地の救済状況・天候など) ②必要な服装・装備・作業場の心構え
- ③作業手順等 ④ケガ、疾病時の応急手当て
- ⑤ケガ、疾病時の現地連絡先(救護所など) ⑥一定時間おきの休憩
- ⑦天候急変時の対応

【周知方法】(複数あれば、すべて記入してください)

- X 時に周知のための手当てはしなかった A センター内に張り紙等で掲示
- B 参加者に紙で配布 C 参加者向けの説明会を実施
- D 現場リーダーに伝達 E インターネットに掲示

問5-2 その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知のための対策があればお書き下さい。

問5-3 貴災害ボランティアセンター等の活動中に、ケガや疾病が発生しましたか。

- ①発生した ②発生しなかった

問5-4 「問5-3」で①と答えた方に:どのようなケガ・疾病だったでしょうか。(複数回答可)

- ①熱中症 ②過労・睡眠不足による各種症状
- ③持病の悪化 ④胃腸消化器の不良
- ⑤転倒等によるケガ ⑥作業中のケガ(クギのふみぬき等)
- ⑦移動中の事故 ⑧その他(具体的な内容をお書きください)

問5-5 下記のような事例がありましたか。(複数回答可)

- ①体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた ②ケガをしているのに作業を続ける人がいた
- ③過労、睡眠不足なのに作業を続ける人がいた ④休憩する時間をとらない人がいた
- ⑤作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった ⑥作業中に天候が急変した
- ⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた ⑧その他(具体的な内容をお書きください)

～次のページに続く(3/4)～

問5-6 災害ボランティア活動の安全衛生について、どんな専門家に相談しましたか。(複数回答可)

- ①医師 ②看護師
- ③保健師 ④日本赤十字社関係者
- ⑤労働安全衛生コンサルタント ⑥その他(具体的な内容をお書きください)
- ⑦特に相談していない

6. ボランティア活動の安全衛生に関わる資機材・物資について

問6-1 災害ボランティアセンター等で準備した用品につき、その大きな数量と、主な調達先をお答えください

(調達先については、「備蓄済み」「元元商店から購入」などとお書きください。)

- ①救急箱などの救急用品セット ②消毒液 ③うがい薬
- ④AED(自働体外式除細動機) ⑤連絡用の携帯電話 ⑥トランシーバー
- ⑦軍手 ⑧ゴム手袋(防水) ⑨ゴム引き手袋(荷運び向け) ⑩皮手袋
- ⑪ヘルメット ⑫防護ゴーグル ⑬通常のマスク ⑭防護マスク
- ⑮安全靴 ⑯ペットボトルの水 ⑰(熱中症予防の)塩分など
- ⑱高圧洗浄機(汚泥等を洗い流す) ⑲その他(自由回答)

問6-2 調達したきつかけはどのようなものですか。(いずれかを回答)

- ①ボランティアや関係者が必要との指図を受けて
- ②センター(スタッフ)が必要と判断し且発的に
- ③マニュアルや規定等であらかじめ決められていたため
- ④その他(具体的な内容をお書きください)

問6-3 調達の際に困ったことはありませんか。(複数回答可)

- ①購入調達先が分からなかった ②購入調達のための資金が足りなかった
- ③安定して十分な量が確保できなかった ④その他(具体的な内容をお書きください)

問6-4 資金があれば調達したかったものは何でしょうか。(自由回答)

問6-5 その他、災害ボランティアセンターの安全衛生のために必要な設備・用品等があればお書きください。(自由回答)

7. 災害ボランティアセンターの設置・運営に関する課題や、安全衛生の確保等について、感想、提案があればご自由にご記入ください。

(例: 役立った支援物資、役立ったノウハウ、活躍したボランティア団体、今回のセンター設置の成果・課題、今後の設置に向けての目標・課題 等)

最後に担当者の所属についてお答えください。
アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

【調査に関する問い合わせ・資料の送付先】

株式会社ダイナックス都市環境研究所 (担当: 津賀、渡邊)
TEL: 03-3580-8221 FAX: 03-3580-8265
〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-5 TKK西新橋ビル3F

災害ボランティア・災害ボランティアセンターに関するアンケート回答用紙

【記入上の注意】記述はわかりやすいように大きくご記入ください。

(1) 正式名称:				
(2) 災害名:				
(3) 設置期間: 平成20年 月 日 ~ 月 日				
(4) センター長名: (役職):				
(5) 事務局の設置場所:		ボランティアスタッフ		
(6)	設置時	名	名	
	最大時	名	名	
	閉塞時	名	名	
(7) スタッフの組織名称				
1-1	・職員			
	団体名 ()	役割 ()		
	・ボランティア	団体名 ()	役割 ()	
※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください				
(8) 設置に至った理由				
(9) 個人名あるいは団体名と役割				
1-2	名称 ()	役割 ()		
	名称 ()	役割 ()		
	名称 ()	役割 ()		
※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください				
1-2		回答番号 (複数回答可):	名	
1-3		(1) 活動回数 (のべ人数):	のべ	
		(2) 把握方法:		
		(3) 主な活動内容:		
		(4) 資料の有無:		
2-1	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
2-2	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円
	回答番号	調達先	金額 (概算)	万円

※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください

~次のページに続く(1/3)~

3-1	回答番号:	
	理由:	
3-2	作成主体 (複数列举可):	
3-3	回答番号:	
4-1	回答番号:	
4-2	回答番号:	
	主体名 (複数列举可):	
	訓練概要:	
4-3	回答番号:	
	構成員 (複数列举可):	
	事務局 (複数列举可):	
5-1	周知する内容	回答欄 (周知方法)
	①活動環境 (被災地の被害状況・天候など)	
	②必要な服装・装備・作業上の心構え	
	③作業手順等	
	④ケガ、疾病時の応急手当法	
	⑤ケガ、疾病時の現地連絡先 (教護所など)	
	⑥一定時間おきの休憩	
	⑦天候急変時の対応	
5-2	その他対策:	
5-3	回答番号:	
5-4	回答番号 (複数回答可):	
5-5	回答番号 (複数回答可):	
5-6	回答番号 (複数回答可):	

FAX 03-3580-8265

~次のページに続く(2/3)~

6-1	用品名	回答欄	数量	調達先
	救急箱などの救急用品セット		組	
	消毒液		本 (大きさ ml)	
	うがい薬		本 (大きさ ml)	
	AED(自動体外式除細動機)		台	
	連絡用の携帯電話		台	
	トランシーバ		台	
	軍手		組	
	ゴム手袋(防水)		組	
	ゴム引き手袋(荷運び向け)		組	
	革手袋		組	
	ヘルメット		個	
	防護ゴーグル		個	
	通常のマスク		個	
	防護マスク		個	
	安全靴		足	
	タオル		枚	
	ペットボトルの水		本 (大きさ ml)	
	(熱中症予防の塩分など		人分 又は	
	高圧洗浄機 (汚泥等を洗い流す)		kg	
	その他:			
6-2	回答番号:			
6-3	回答番号 (複数回答可):			
6-4	調達したかったもの:			
6-5	装備・用品等:			

7 (例: 仮だった物資・ノウハウ、派遣したボランティア団体、今回のセンター設置の成果・課題、今後の設置に向けての目標等)

都道府県	区市町村
部署	
担当者名	
電話	FAX
mail	

アンケートにご協力いただきありがとうございます。

FAX 03-3580-8265

